

茨木市立中条小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ②A話すこと・聞くこと | 大変良好な結果であった |
| ③B書くこと | 大変良好な結果であった |
| ④C読むこと | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 大変良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

分析

- ・すべての領域において、大変良好な結果であった。
- ・問いに合わせた文を書くために、条件や要点を押さえた文章を書く経験が多く設定した授業の工夫がさらに必要である。
- ・字数制限に対して文章を書き答えるのはさほど難しくないにせよ、条件に合わせて文章を書き表すのは困難だと考えられる。今後は、情報収集・集約・整理を、授業の中でより一層意識して取り組んでいく。
- ・「積」と「績」とで区別がつきにくいと、あきらめてしまう傾向がみられる。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 大変良好な結果であった |
| ②B図形 | 大変良好な結果であった |
| ③C測定 | 良好な結果であった |
| ④C変化と関係 | 大変良好な結果であった |
| ⑤Dデータの活用 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 大変良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

分析

- ・ほとんどの領域において、大変な良好な結果であった。
- ・図形の面積の学習で、ある図形を分割して並べ替えても面積が変わらないという、量の保存性を理解して活用することが課題としてみられた。
- ・基準量を1とした時、いくつになるかを考えることが難しい。10等分して0.1にあたるものを考えること、比較量がいくつになるかを考える時、倍の応用も難しく、課題であると考え。
- ・無解答率が高かった問題や、正答率が低かった問題が、記述式であることから、「まず書いてみよう」と取り組んでいく姿勢に課題が見られた。
- ・計算ができるだけでなく、面積の求め方を式や言葉を使って問題解決できる力の育成を図る。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・例年、良好な結果、大変良好な結果で推移しており、全国平均より高い位置を維持している。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・昨年と比較すると学力高位層は増えており、全国平均と比較しても高い。低位層はやや減っており、全国平均と比較しても少ない。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

- ・どの児童にもよく分かり、主体的に学習する授業のあり方を研究している。
- ・「主体的に学び、自分の考えを表現することのできる子どもの育成～「書くこと」の指導を通して～」をテーマに研究を進めている。
- ・図書の日や読書週間などで本を楽しむ機会を持ったり、本の紹介を掲示したりするなど、読書活動の推進をしている。
- ・スクールサポーター、図書委員会が連携し、休み時間に図書室を開放し、子どもが本に親しむ機会を増やしている。
- ・毎日の学習や朝学習を行うことで、学習の習慣をつけている。
- ・国語科においては、校内で研究して意見交流を行い、研究授業に取り組んでいる。
- ・算数科における習熟度別指導の実施をしている。
- ・支援担当と細かく打ち合わせをして、児童への支援の配置を工夫し、個別の学習支援をしている。
- ・情報研修を行い、デジタル教科書や書画カメラ、タブレットなどICT機器を効果的に活用している。
- ・今後、子どもが学習へ安心して取り組めるように、授業の流れや板書などを校内でそろえる取組みを考えていく。